



命を救う。命をつなぐ。

CHIKAMORI

HEALTHCARE GROUP

近森病院

近森病院からの ホットライン

2023.11 Vol.237

発行：近森病院地域医療連携センター

皮膚科領域における

分子標的治療

皮膚科 部長 高田 智也

経歴 2002 高知医科大学卒業（千葉県出身）
同 皮膚科入局
2008 高知県立幡多けんみん病院 皮膚科
2009 高知大学 皮膚科学講座 助教
2015 近森病院 皮膚科 着任
2022 部長昇格

専門分野 皮膚科一般
抗がん剤による皮膚障害

専門資格 日本皮膚科学会 皮膚科専門医



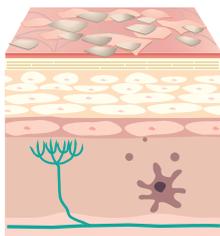
皮膚疾患のパラダイムシフト

近森病院皮膚科の高田智也です。千葉県で生まれましたが、もう40年以上高知で過ごしていますので、自己紹介の際は“高知出身、高知育ち”という事になっています。2015年に赴任してから早8年が経ちましたが、この間に皮膚科領域における分子標的治療（バイオ製剤や低分子化合物）は凄まじい進歩を遂げており、様々な皮膚疾患の治療でパラダイムシフト*が起き続けていると感じております。

*パラダイムシフトとは、その時代に当然と考えられていた物の見方や考え方が劇的に変化すること

分子標的治療が選択肢となる代表的な皮膚疾患は乾癬とアトピー性皮膚炎ですが、掌蹠膿疱症や円形脱毛症、

結節性痒疹、化膿性汗腺炎などにも適応のある薬剤があり、患者さんの状態とニーズに合わせて治療を提案させていただいております。



乾癬の分子標的治療

乾癬に対するバイオ製剤は、2010年に抗TNF阻害薬が適応になって以来、IL-12/23阻害薬、IL-17抗体・IL-17受容体抗体製剤、IL-23阻害薬が治療の選択肢として加わりました。バイオ製剤の投与対象となる患者さんは、以下のいずれかの条件を満たす方です。

- ・既存の全身治療で改善の乏しい患者で、
皮疹が体表面積の10%以上に及ぶ尋常性乾癬
- ・乾癬性関節炎
- ・膿胞性乾癬（汎発型）
- ・乾癬性紅皮症



皮膚症状のみの尋常性乾癬に対しては、いずれの薬剤でも高い効果が期待できます。薬剤選択に明確な基準はなく、副反応のリスクや投与方法、通院の負担など患者さんの希望をふまえながら薬剤を選択しています。関節症状（乾癬性関節炎）がある場合は、関節破壊の進行抑制作用も期待できるTNF阻害薬かIL17阻害薬が推奨されます。

紹介web予約をはじめました
088-822-5231(代)

ご希望の場合は
地域医療連携センターまでご連絡ください



乾癬に対する低分子化合物



PDE4 阻害薬（オテズラ）

局所療法で効果不十分な尋常性乾癬、乾癬性関節炎に適応を有しており、消化器症状以外に目立った副作用が少ないため導入しやすい薬剤です。皮疹の改善以外に痒みや関節痛の軽減にも効果が期待できますが、効果発現には時間を要する印象です。



JAK 阻害薬（リンヴォック）

既存治療で効果不十分な乾癬性関節炎に適応があり、アダリムマブ（ヒュミラ）との比較試験では非劣性が示された有効性の高い薬剤です。リンヴォックはアトピー性皮膚炎にも使用する機会が多いですが、他の JAK 阻害薬と同様に帯状疱疹を発症するリスクが高いため、可能な方は帯状疱疹ワクチンを事前に接種する事をお勧めします。



TYK2 阻害薬（ソーティクツ）

既存治療で効果不十分な尋常性乾癬、膿胞性乾癬、乾癬性紅皮症に適応があり、皮疹改善率はバイオ製剤に匹敵するほど高いとされております。JAK 阻害薬と比べ、帯状疱疹発症のリスクが低いこともメリットの一つです。

“ちょっとした皮膚のトラブル”でも お気軽にご相談ください。

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----|---|---|---|---|---|
| 午前 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 午後 | ○ | | ○ | ○ | |

- アトピー性皮膚炎
標準のおよび分子標的薬による治療（デュピリマブ、JAK 阻害薬）
- 光線療法
エキシマライト（ターゲット型照射）、全身ナローバンドUVB照射
- ウィルス性疣贅
液体窒素凍結療法、モノクロ酢酸、フェノール
- 腋窩多汗症 ボトックス（局注）、エクロックゲル（外用）
- 帯状疱疹ワクチン ビケン製生ワクチン、シングリックス
- パッチテスト
パッチパネルS（本邦標準アレルゲン）、パッチテスト試薬金属



新しい治療を取り入れつつ
古くからある良い治療を織り交ぜながら
日常診療に励んでいます